



2020年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年8月13日

上場会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 4772 URL <https://www.streammedia.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 崔 官鎔
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画本部長 (氏名) 山田 政彦 TEL 03-6809-6118
 四半期報告書提出予定日 2020年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第2四半期の業績 (2020年1月1日～2020年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	2,188	△45.0	△102	—	△96	—	△91	—
2019年12月期第2四半期	3,982	24.6	96	80.4	99	94.9	72	49.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第2四半期	△5.55	—
2019年12月期第2四半期	4.40	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第2四半期	4,866	4,172	84.2	248.19
2019年12月期	5,190	4,248	80.7	253.75

(参考) 自己資本 2020年12月期第2四半期 4,097百万円 2019年12月期 4,189百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年12月期の業績予想 (2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2020年12月期の業績予想につきましては、2020年8月13日に開示いたしました「2020年12月期通期業績予想修正に関するお知らせ」に記載の通り、新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しが立たず、現時点では合理的な算定が困難であります。また、当社は2020年8月1日を以て、当社を吸収合併存続会社、株式会社SMEJを吸収合併消滅会社とした吸収合併を行っております。当期業績予想につきましては、合併直後であり現時点では予測が困難であるため、2020年2月14日に公表いたしました業績予想を一旦取下げ、未定とさせていただきます。今後、業績予想の合理的な算定が可能となった時点で、改めて公表いたします。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期 2 Q	16,520,351株	2019年12月期	16,520,351株
② 期末自己株式数	2020年12月期 2 Q	9,391株	2019年12月期	9,351株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期 2 Q	16,510,998株	2019年12月期 2 Q	16,511,134株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ 1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛等、消費活動の冷え込みにより経済環境は急速に悪化しており、景気の先行きは極めて不透明な状況にあります。

当事業を取り巻く環境といたしましては、CS放送の契約者数は依然として減少傾向にある一方で、OTT(ネット配信による動画配信)の拡大や、地上波とインターネット上での同時配信の実施など、ユーザーの嗜好性とライフスタイルの変化に応じた多様なサービスが展開されており、新型コロナウイルスによる外出自粛やイベントの中止が続く中、こうしたサービスへの注目度は更に高まっています。

このような経営環境の中、当社の当第2四半期累計期間においては、ライツ&メディアコミュニケーション事業では、イベント案件はなかったものの、引き続き著作権事業が順調に推移いたしました。また放送事業では、自社テレビ局KNTV・DATVとリニア配信Kchan!韓流TVに加え、スカパー!CS110度にて専用チューナー不要で視聴可能な『KNTV801』をサービス開始する等、プラットフォームを拡大し、更なる視聴者獲得を図ってまいりました。なお、8月1日付で同じくエスエム・グループの株式会社SMEJとの合併を実施しており、これまで以上にエスエムグループ各社とより緊密な関係を構築することで、コンテンツの充実やプラットフォームの有効活用など、当社の主要事業でのシナジー創出が期待されております。

利益面では、放送事業において『KNTV801』サービス開始に伴う初期費用が嵩んだこともあり、この結果、当第2四半期累計期間の売上高は21億88百万円(前年同期比45.0%減)、営業損失1億2百万円(前年同期は営業利益96百万円)、経常損失96百万円(前年同期は経常利益99百万円)、四半期純損失91百万円(前年同期比は四半期純利益72百万円)となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

(ライツ&メディアコミュニケーション事業)

イベント・マネジメント事業では、当第2四半期累計期間には、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、イベント案件は無かったものの、ファンクラブ事業では、当社ECサイトでのアーティストオフィシャルグッズ販売が好評を得ました。著作権事業では、引き続き大型ドラマ著作権の自社テレビ局での放送をはじめ、CS・BSでの放送決定やDVD・VOD化事業も順調に推移しております。

この結果、売上高は11億96百万円(前年同期比58.5%減)、セグメント利益は1億22百万円(前年同期比69.4%減)となりました。

(放送事業)

放送事業では、自社テレビ局であるKNTV、DATV、リニア配信のKchan!韓流TVに加え、スカパー!CS110度にて『KNTV801』のサービスを開始する等、継続的な視聴料収入の安定化と販路拡大を図ってまいりました。KNTVでは、型破りな天才外科医と若手医師たちの活躍を描いた大ヒット作のシーズン2「浪漫ドクターキム・サブ2(原題)」や、デビューアルバムが米ビルボードチャートで1位を獲得するほど世界的な人気を誇るSMのグローバルグループ・SuperMのデビューまでの道のりに密着したスペシャル番組「SuperM ザ・ビギニング」等の話題作を日本初放送し、好評を得ました。DATVでは、EXOのスホ主演で天才パティシエと女性脚本家のファンタジーロマンスを描いた「HOW ARE u BREAD」、中国にて配信開始2日で1億ビューを記録し大反響を呼んだ話題の時代劇ドラマ「鳳凰の伝説(原題)」を日本初放送しました。Kchan!韓流TVでは、オーディション番組での完璧なパフォーマンスで人気を博したキム・グクホンとソン・ユビンによる新ユニットB Of Youのオリジナルインタビュー番組「B Of You K-STAR TV」、ダンスボーカルユニットJGの入隊までの3日間を密着取材したスペシャル番組「JG 入隊密着3DAYS」等、オリジナル番組を配信し好評を得ました。

しかしながら、『KNTV801』サービス開始に伴い番組費用が嵩んだ結果、売上高は9億95百万円(前年同期比17.9%減)、セグメント損失は9百万円(前年同期はセグメント損失75百万円)となりました。

(その他事業)

その他事業では、売上高は0百万円(前年同期は売上高1百万円)、セグメント利益は0百万円(前年同期セグメント損失0百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債および純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産は、48億66百万円となり、前事業年度末に比べ3億24百万円減少しました。この主な要因は、現金及び預金が2億96百万円増加、売掛金が1億74百万円減少、およびコンテンツ事業権が5億24百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、6億94百万円となり、前事業年度末に比べ2億48百万円減少しました。この主な要因は、買掛金が2億83百万円減少、およびその他が46百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、41億72百万円となり、前事業年度末に比べ76百万円減少しました。この主な要因は、利益剰余金が91百万円減少したことによるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末に比べ2億96百万円増加し、12億49百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、3億6百万円の資金の増加(前年同期は3億57百万円の増加)となりました。

これは、主にたな卸資産の減少が6億63百万円、および仕入債務の減少が2億83百万円あったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、5百万円の資金の減少(前年同期は59百万円の減少)となりました。

これは、主に有形固定資産の取得による支出が4百万円、無形固定資産の取得による支出が5百万円、および貸付金の回収による収入が4百万円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2百万円の資金の減少(前年同期は3百万円の減少)となりました。

これは、主にリース債務の返済が2百万円あったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の業績予想につきましては、2020年8月13日に開示いたしました「2020年12月期通期業績予想修正に関するお知らせ」に記載の通り、新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しが立たず、現時点では合理的な算定が困難であります。また、当社は2020年8月1日を以て、当社を吸収合併存続会社、株式会社SMEJを吸収合併消滅会社とした吸収合併を行っております。当期業績予想につきましては、合併直後であり現時点では予測が困難であるため、2020年2月14日に公表いたしました業績予想を一旦取下げ、未定とさせていただいております。今後、業績予想の合理的な算定が可能となった時点で、改めて公表いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	952,532	1,249,391
売掛金	488,017	313,830
商品	2,355	1,345
番組勘定	754,507	616,098
コンテンツ事業権	1,744,289	1,220,086
貯蔵品	110	110
前渡金	794,051	887,111
その他	40,718	184,559
貸倒引当金	△1,943	△1,500
流動資産合計	4,774,639	4,471,034
固定資産		
有形固定資産	80,113	73,331
無形固定資産	108,805	102,350
投資その他の資産		
投資有価証券	39,731	39,731
関係会社株式	1,000	1,000
その他	289,414	281,733
貸倒引当金	△102,948	△102,930
投資その他の資産合計	227,196	219,534
固定資産合計	416,115	395,216
資産合計	5,190,755	4,866,251
負債の部		
流動負債		
買掛金	429,345	145,641
前受金	254,557	245,961
その他	236,834	283,539
流動負債合計	920,737	675,143
固定負債	21,772	18,983
負債合計	942,510	694,126
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,591,492	4,591,492
資本剰余金	1,825,566	1,825,566
利益剰余金	△2,194,468	△2,286,175
自己株式	△33,002	△33,011
株主資本合計	4,189,587	4,097,871
新株予約権	58,657	74,252
純資産合計	4,248,245	4,172,124
負債純資産合計	5,190,755	4,866,251

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
売上高	3,982,452	2,188,472
売上原価	3,323,923	1,785,981
売上総利益	658,529	402,491
販売費及び一般管理費	562,157	504,704
営業利益又は営業損失(△)	96,372	△102,213
営業外収益		
受取利息	1,164	1,068
為替差益	1,418	—
還付加算金	497	—
業務受託料	—	5,400
その他	127	360
営業外収益合計	3,207	6,828
営業外費用		
支払利息	446	317
為替差損	—	588
その他	0	5
営業外費用合計	446	911
経常利益又は経常損失(△)	99,133	△96,296
特別利益		
新株予約権戻入益	3,886	6,680
特別利益合計	3,886	6,680
特別損失		
固定資産除却損	3,969	—
減損損失	1,375	—
その他	168	—
特別損失合計	5,512	—
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	97,507	△89,615
法人税、住民税及び事業税	24,873	2,091
法人税等合計	24,873	2,091
四半期純利益又は四半期純損失(△)	72,633	△91,706

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	97,507	△89,615
減価償却費	27,878	22,753
減損損失	1,375	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	811	△461
受取利息及び受取配当金	△1,164	△1,068
支払利息	446	317
固定資産除却損	3,969	—
新株予約権戻入益	△3,886	△6,680
為替差損益(△は益)	1,991	1,439
売上債権の増減額(△は増加)	106,498	174,186
たな卸資産の増減額(△は増加)	△64,670	663,621
前渡金の増減額(△は増加)	374,318	△93,060
その他の流動資産の増減額(△は増加)	112,857	△143,840
仕入債務の増減額(△は減少)	△40,009	△283,703
前受金の増減額(△は減少)	△602,562	△8,595
その他の流動負債の増減額(△は減少)	327,775	77,367
その他	15,007	21,849
小計	358,143	334,509
利息及び配当金の受取額	1,164	1,068
利息の支払額	△446	△317
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,168	△29,225
営業活動によるキャッシュ・フロー	357,693	306,034
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△71,867	△4,500
無形固定資産の取得による支出	△17,887	△5,688
有形固定資産の売却による収入	114	—
敷金及び保証金の差入による支出	△286	—
敷金及び保証金の回収による収入	36,845	143
貸付金の回収による収入	4,800	4,800
その他	△11,400	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△59,682	△5,245
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△3,109	△2,664
自己株式の取得による支出	△7	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,116	△2,674
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,666	△1,255
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	293,228	296,858
現金及び現金同等物の期首残高	1,644,304	952,532
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,937,533	1,249,391

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ライツ& メディア コミュニケーション	放送	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,768,936	1,211,667	3,980,604	1,848	3,982,452
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	111,961	—	111,961	—	111,961
計	2,880,898	1,211,667	4,092,566	1,848	4,094,414
セグメント利益又は損失(△)	399,669	△75,334	324,335	△764	323,571

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	324,335
「その他」の区分の利益	△764
全社費用(注)	△227,199
四半期損益計算書の営業利益	96,372

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ライツ& メディア コミュニケーション	放送	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,195,629	992,842	2,188,472	0	2,188,472
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	416	2,302	2,719	—	2,719
計	1,196,045	995,145	2,191,191	0	2,191,191
セグメント利益又は損失(△)	122,260	△9,923	112,336	0	112,337

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	112,336
「その他」の区分の利益	0
全社費用(注)	△214,550
四半期損益計算書の営業損失(△)	△102,213

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(同一の親会社を持つ会社との合併)

当社は、SM ENTERTAINMENT CO., Ltd. を同一の親会社に持つ株式会社SMEJ (以下「SMEJ」といいます。) と2020年5月29日付で吸収合併契約書を締結し、2020年7月21日開催の当社及びSMEJの臨時株主総会における承認決議を経て、2020年8月1日にSMEJを吸収合併いたしました。

1. 合併の目的

当社はこれまで、CS放送・ライセンス事業のノウハウを活かし、モバイルへとチャンネルを拡張して、日本・韓国のみならずアジア全体を舞台として事業領域の拡大を図ってまいりました。

また、当社の親会社である株式会社キーイーストや株式会社エスエム・エンタテインメント・ジャパン、そして両社の親会社であるSM ENTERTAINMENT CO., Ltd. との関係強化を図ってまいりました。

しかしながら当社を取り巻く事業環境におきましては、5G時代における動画配信サービスの普及等メディア環境の変化に伴い衛星放送契約者数は依然として減少傾向にあり、視聴料収入の伸び悩みやファンクラブ事業収入の減少等と共に大変厳しい状況が続いております。

一方で、視聴デバイスの多様化に伴い急増する良質コンテンツ需要を背景としたコンテンツ争奪戦が激化しており、アジアを超え米国や欧州等への広がりを見せるK-POPやドラマ等の韓流コンテンツに対する世界市場の注目度は益々高まってきております。

当社は、新しい成長を実現するための道筋を確立するべく、当社と株式会社エスエム・エンタテインメント・ジャパン及びその完全子会社であるSMEJとの間で様々な検討を行ってまいりました。

その結果、当社がSMEJと吸収合併することで、企業規模及び事業ポートフォリオを拡大し、シナジーの発揮を通じて、アジアを超えて世界を舞台とした総合メディアコンテンツ企業となることが可能であるという考えに至りました。エスエム・エンタテインメント・ジャパン及びその傘下企業の資源を効率的に活用することが可能だけでなく、世界展開を行うSM ENTERTAINMENT CO., Ltd. 並びにその子会社及び関連会社の豊富なコンテンツを活用することで当社が日本において長年にわたり構築してきたプラットフォームのより効率的で魅力的な運営が期待できると考えております。

2. 合併の趣旨

(1) 合併方式

当社を吸収合併存続会社、SMEJを吸収合併消滅会社とする吸収合併方式。

(2) 合併に係る割当ての内容

	当社 (吸収合併存続会社)	SMEJ (吸収合併消滅会社)
合併比率	1	90.00

(注1) 本合併により発行する当社の新株式数：普通株式90,000,000株

(注2) SMEJの株主の保有する同社の普通株式1株につき、当社の普通株式90株を割り当てます。

3. 被合併法人の概要

- | | |
|---------------|--|
| (1) 商号 | 株式会社SMEJ |
| (2) 所在地 | 東京都港区六本木三丁目2番1号住友不動産六本木グランドタワー21階 |
| (3) 代表者の役職・氏名 | 代表取締役 南 昭英 |
| (4) 資本金の額 | 10,000千円 |
| (5) 事業の内容 | 歌手のマネジメント、音楽制作、コンサート・イベントの企画制作、及びMD事業等 |

(注) SMEJは新設分割により2020年4月1日に設立されており、新設分割においてSMEJが承継した分割対象事業の2019年12月期の主な経営成績及び資産規模は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

売上高	営業利益	経常利益	純資産	総資産
6,248	662	677	98	2,946

4. 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理を行います。